

氏名	岡崎英生
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙 第349号
学位授与の日付	昭和44年3月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	モルモット内耳液電解質の塩基性抗性物質による早期変化について
論文審査委員	教授 高原 滋夫    教授 水原 舜爾    教授 山崎 英正

### 学位論文内容の要旨

教室の安原はモルモットの内耳液を、外リンパは基礎回転鼓室階、基礎回転前庭階、第4回転前庭階の3カ所、内リンパは Utriculus, Cochlear duct の2ヶ所より分割採取し、採取液量は微量直示天秤で計量後、焰光法でNa・K濃度を測定した結果、正常値の変動範囲は狭少となり、外リンパK濃度は基礎回転鼓室階、基礎回転前庭階、第4回転前庭階の順に高くなっているのを認め、外リンパNa濃度は有意の差が見られなかった。内リンパNa・K濃度についてはUtriculusとCochlear ductの組成はほぼ同一であったと報告している。

著者も正常値については安原の報告と同様な結果を得たが、採取方法の練磨、測定方法の改良により正常値の変動範囲はより狭少となった。

正常値が確立したのでKanamycin, Dihydrostreptomycin, Streptomycinを夫々400mg/kgを3日間腹腔内に注射し、プライエル氏耳介反射や前庭機能に異常を認めない4日目にNa・K濃度を測定したところ、外リンパKでは基礎回転鼓室階のKが主に上昇し、基礎回転鼓室階、前庭階、第4回転前庭階の順にKが高いという有意差はなくなった。外リンパNa濃度については有意の差を認めなかった。

内リンパKはCochlear duct, Utriculusの両者共正常値より有意の差をもち低下したのを認めた。内リンパNaについては有意の差を認めなかった。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は塩基性抗物質投与によるモルモット内耳液電解質の変化を観察したものであるが、認められる以前に内耳液電解質は早く有意の変動を示し、かつ内リンパは前庭系、蝸牛系ともに同程度に変化することを指摘したもとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。